

研修だより

No.10

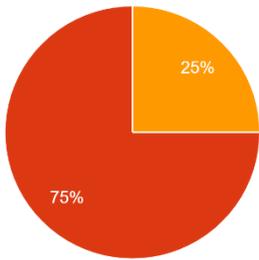
「学ぶ」授業に関するアンケート結果より②

今回は、先生方に協力していただいた「学ぶ」授業に関するアンケートの結果をお知らせします。他の先生方が意識していることやその成果、また苦勞したり悩まれていたりすることを共有することができればなと思います。参考になるご意見もたくさんありましたのでぜひご覧ください。ご協力ありがとうございました！

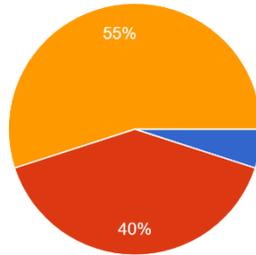
教職員のアンケート結果より

●4 ●3 ●2 ●1

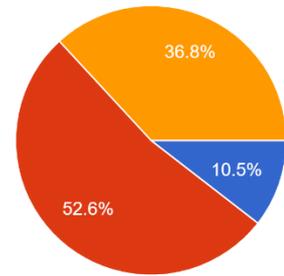
学級の子どもたちは、主体的に学習に取り組んでいますか？



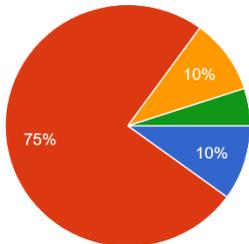
学級の子どもたちは、自分の考えをもったり、伝えたりすることができますか？



学級の子どもたちは、友達と協力して課題を解決することができますか？



意識して「学ぶ」授業を取り入れることができますか？



子どもたちが主体的に学習に取り組んでいると考えている先生が少ないことがわかります。児童アンケートから、子どもたちは仲間と教えあったり、協力したりしながら学習することに楽しさを見出している傾向があることがわかります。協働的な学習を増やしたり、これから「学ぶ」授業のスタイルが確立したり、勉強する楽しさに気づいたりする中で、主体的な姿が見られるようになるといいですね！



4月から、子ども主体の授業で意識していることは何ですか。

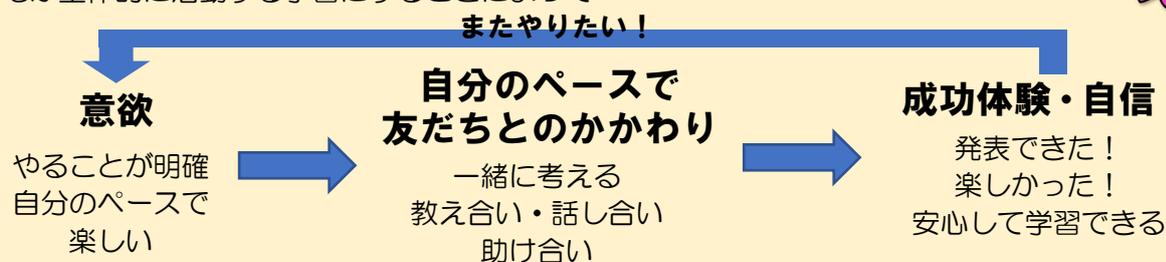
- ・単元の課題を意識させ、ゴールから逆算して、その時間の活動を考えさせること。
- ・子どもの疑問や困り感に寄り添った課題を作る。個々のペースで学習を進める。
- ・「問い」や「単元計画の見通し」から学習を始めることを心掛け、学習の必要性を持って取り組めるようにしている。話す、書くなどのアウトプットの機会を多く設けつつ、全員で音読する、提示した資料に必ず視線を向けて考えるよう具体的に指示し、傍観的に参加することが減るように心掛けている。
- ・子どもたちが自分の考えを持つこと、発表に苦手意識を持たないようにすること、自分の言葉で物事や考えを説明できるようになること
- ・課題や解決方法など、自分で選択する場面を設定し、自分たちで課題を解決した意識をもたせること。
- ・子どもが発言する機会を増やすようにしている。活動に参加することができるような課題の設定を意識している。
- ・小集団活動では、子どもたちが話し合って決める場面を設定している。
- ・情報を与えずに、子ども同士で一緒に考えたり相談したりする時間をつくることをつくること
- ・自分の考えをもてるような時間を確保する。友達と交流して、自分の意見をもてるようにしている。
- ・調べたいものを好きなだけ調べる、家庭学習で取り組む子をほめる、自信をつけさせる。 ・自分の考えを共有することに慣れること。
- ・子どもたちに、今日の目標を決めさせたり選択させたりする。例えば算数のワークだったら、「今日は、⑧まで頑張るぞ」、自立活動でいくつか方法がある中から「きょうはこれをやるぞ。」のように。
- ・子ども自身が興味をもって取り組めるような課題を設定したり、活動の場面を設定したりしています。
- ・自分がしゃべりすぎないで、子どもたちがじっくり考える時間や発言する時間を確保すること。
- ・こどもが「やってみたい！」と思えるような課題や学習形態（個人・ペア・グループ）の工夫
- ・難しい問題でも自分で考える習慣づけ ・自己決定・自己選択・交流の中でヒントや答えに近づく。
- ・手をあげている子は全員発表するようにしている。

子ども主体の活動を取り入れたときの子どもの様子はどうか。【よさ】

- ・課題解決の進捗状況を、自分自身で見つめ直すようになった。
- ・学習の見通しをもつことでやるべき課題がはっきりする。その日の子どもの様子に合わせて学習を進めることができる。
- ・特に理解力の高い児童にとって、一斉学習のペースよりも早く課題を終えられることに意欲を感じる様子が見られる。探求的な学習では、テーマや方法を自身で選択できることにより、主体的に活動ができるよさを感じる。教科書や書籍などを自力で読み取る力を伸ばすことに繋がる点は大きなメリットに感じ、学習内容を児童自身がある程度のまとまりで捉えられるようになり、学習の見通しを立てる力を伸ばせると思う。協同学習を選ぶことで、自分の考えに自信のない児童が主体的に考えを記述できる良さを感じる。
- ・意欲的に楽しそうに学習に取り組んでいる子が多い。子どもたち同士で協力したり、教え合ったりしながら学習を進めている姿が見られる。
- ・同じ課題意識をもった人同士で集まるため、一緒に考えることが楽しそうにしている。個人で考えたい子は、自分のペースのできるのでどんどん進められてよさそう。
- ・発表が成功体験に繋がり、大きな声で発表してくれるようになった。
- ・話し合いを進める、意見を言う、話をまとめる児童が自然と生まれ、話し合いが進められている。
- ・発言が増える。助け合いが増える。自信がありそうな表情、次も取り組もうとする意欲 up
- ・友達と交流することで、自分の考えに自信が持てたり、安心して書いたりすることができるようになってきた。
- ・前向きに取り組むことができる児童が増えた。
- ・自分で決めたことなので、しっかり頑張ろうとする姿勢が見られるし、できたときに満足感があるように思えます。(やらされているのではなく、自分でやるという意識。)
- ・考え、発表することは好きである。
- ・生き生きと活動している子が多い。自ら友達のところへ相談に行ったり確かめに行ったりする姿が見られる。
- ・生き生きと活動し、自分たちで解決しようと試行錯誤をしながら学習に参加する。

成果

子どもが主体的に活動する学習にすることによって…



というよいサイクルができています。

子ども主体の活動を取り入れたときの子どもの様子はどうか。【困り感】

- ・意欲が低いと、適当に活動してしまっている様子が見られます。
- ・友達との解決より、教師との解決を求めてきやすい。単元の時間内で課題が終わらない。
- ・個人ではモチベーションや集中力を維持できない児童にとっては、計画を立てて学習を進めることが難しい様子が見られた。メリットで書いた「早く終わらせたい意欲」はデメリット面もあり、早く終わらせることが目的化して取組が雑になったり、順位にこだわり自己中心的な態度が見られたりする。4～5時間続けて子ども主体形式を取り入れた場合、学習進度の違いが大きく出るのでその調整が難しくなる。
- ・ペース配分を自己管理することが難しく、言葉掛けをしても時間内に学習内容が終わらないことが多いこと
- ・何もしない子はいなくなるが、低位の子で集まってしまうこともあり、結局解決に至らないこともある。
- ・考えが思いつかなかったり、考えを言語化できなかつたりすると、発表までたどり着けない。
- ・指導側が意図しない方向に話が進んだり、意見がまとまらないまま時間が経ったりすることがある。
- ・課題からかけ離れた活動になってしまうことが多々あるので、何をしたらいい時間なのかわからなくなっていることがある。
- ・見通しを伝えても難しい児童は、何から取り組んだらいいか、手が止まる。
- ・学習に困り感を持っている児童が自分から活動に取り組むことに時間がかかるため、手立てが必要となる。
- ・できる人にまぎれて受け身な態度の児童もいる。・ステップの子どもたちの話し合う内容が幼い。
- ・低位の子はその時間、雰囲気についていくのみで、事後のまとめや習熟の時間で学び直す必要が大いにあります
- ・できる子はその方法で頑張れますが、自分で考えることが苦手な子には難しいのでこちらから提案するようにしています。
- ・学習内容の定着や進み具合を考えると、厳しいと感じることもあります。
- ・仲良しで集まってしまう傾向がある。困っている子の中には、自分から動けない子もいる。
- ・学習内容間の繋がりが弱い。・低位の子たちの考える時間が足りず、友達の言いなりに動いている。

課題

子ども主体の活動を取り入れると、

- ・低位の児童の学習サポート→手が止まってしまうたり、教師との解決を求めたりしてしまう。受け身に。
- ・児童の主体的な活動とその授業のねらいや目標とのズレ→何のための活動なのか。どのようにまとめるか。
- ・時間が足りない→授業時数のオーバー、指導内容の未定着などの心配。

などの困りごとが多いようです。解決する手立ては、研究部でも検討してみます！